
国立大学における 機関リポジトリの取り組み

千葉大学附属図書館

尾城 孝一

ojiro@ll.chiba-u.ac.jp

機関リポジトリ

「審議のまとめ」

- 科学技術・学術審議会『学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)』(平成14年3月12日)
 - 「大学等から発信される様々な学術情報が簡便に利用できるためには、総合的な情報の発信窓口(ポータル機能)を設置し、統一的な規約によって情報を発信する必要がある。このために、大学図書館が中心となって...情報発信のためのシステムの設計・構築を行う必要がある」

機関リポジトリ (Institutional Repository) とは

■ 定義

- 電子コンテンツを捕捉し, 保存し, 発信するためのウェブベースのデータベース

■ コンテンツの要件

- 学術的価値
- ある学術機関において生産されたコンテンツ (vs. 主題ベースのリポジトリ)
- 累積的かつ永続的
- オープン (誰もが無料でアクセス可能) かつ相互運用可能

期待される効果

- 社会にとって
 - 大学の研究動向の迅速な把握
- 大学にとって
 - 大学としての社会に対する説明責任の履行
 - 研究機関としての知名度(ブランド)の向上
 - 産学連携の促進
- 研究者にとって
 - 自らの研究成果のインパクトの向上
 - 自らの研究成果の管理, 発信, 保存のコスト削減

オープンアクセス運動と機関リポジトリ

- オープンアクセスとは
 - 学術論文への障壁なきアクセス
- 2つのロードマップ
 - オープン・アクセス誌の創出
 - 掲載論文への障壁なきアクセスを許す雑誌の創出
 - [Directory of Open Access \(DOAJ\)](#)
 - セルフアーカイビング
 - 著者が、電子論文をインターネット上に蓄積し、それを無償で公開する行為
 - 受け皿(個人サイト, 分野別eプリントアーカイブ, 機関リポジトリ)

世界の機関リポジトリ

- Institutional Archives Registry (Eprints.org)
 - 388リポジトリ(2005.2.25現在)
 - <http://archives.eprints.org/eprints.php>
- Directory of Open Access Repositories: DOAR
 - <http://www.opendoar.org/>

千葉大学学術成果リポジトリ

CURATOR: Chiba University's Repository for
Access To Outcomes from Research

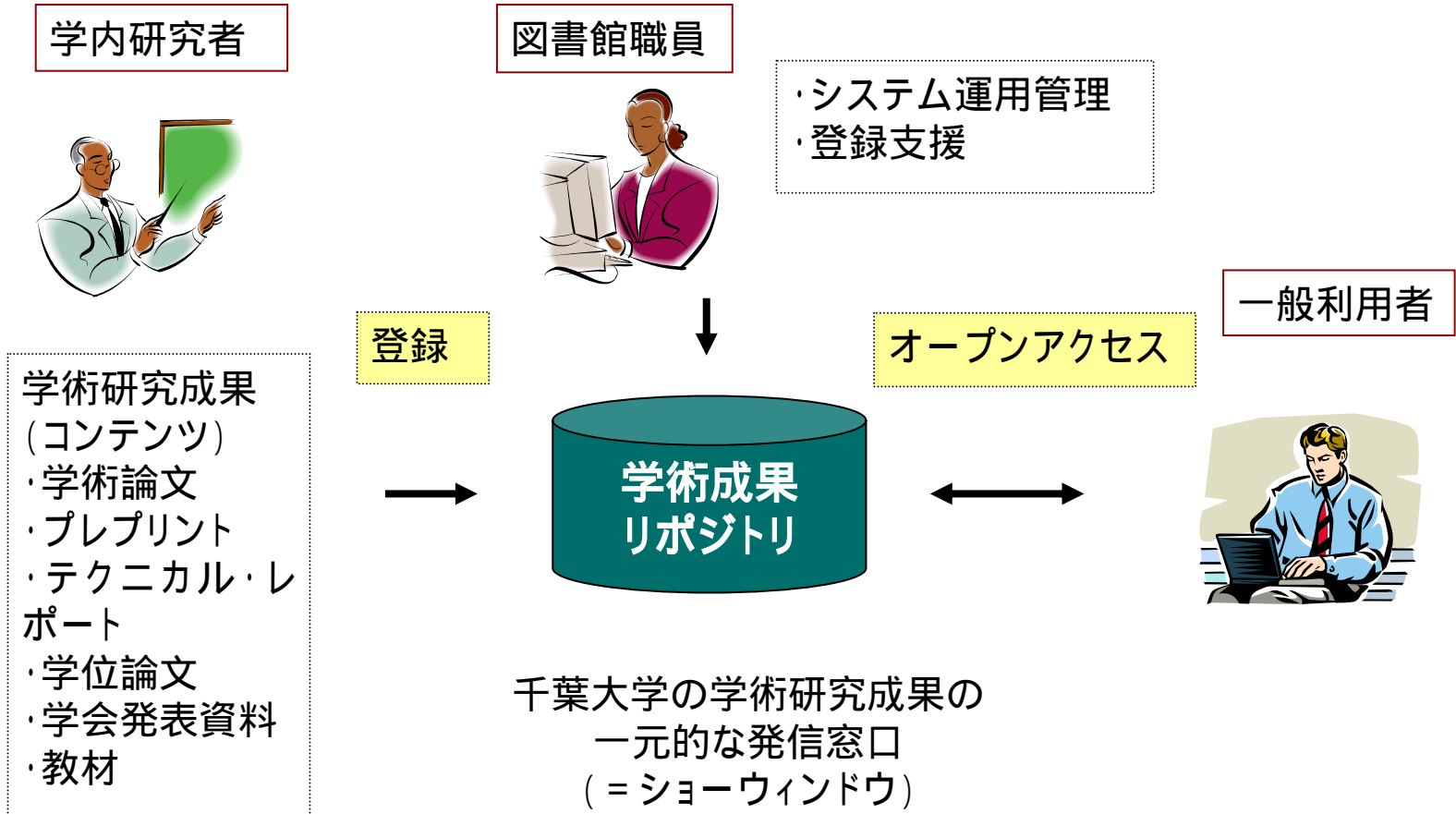
千葉大学学術成果リポジトリ

- 千葉大学内で生産された電子的な知的生産物 (学術論文, 学位論文, プレプリント, 統計・実験データ, 教材, ソフトウェアなどの学術情報) を蓄積, 保存し, 学内外に公開するためのインターネット上の発信拠点

経緯

- 平成14年度
 - 館内ワーキンググループの設置
 - 国内外の動向調査
 - 学内教官を対象としたアンケート調査実施
 - プロトタイプ・システムの開発着手
- 平成15年度
 - 「学術情報発信に関する懇談会」
 - 附属図書館長の下に「学術情報発信のための協力者会議」設置
 - 運用方針の策定, システムの改良
- 平成16年度
 - 附属図書館運営委員会の下に「学術情報発信専門委員会」設置
 - 学内合意
 - 正式運用開始(3月～), 公開(7月1日予定)

概念図



デモンストレーション

- <http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/>

構築と運用上の課題

学内合意形成

- なぜ学内合意が必要か？
 - 「機関(大学)リポジトリ」であって、「図書館」リポジトリではないから
- なぜリポジトリが必要か？
 - 意義とメリット
- 類縁事業とのすり合わせ
 - 研究業績データベース
 - 評価データベース
 - 知的財産本部
 - 産学連携本部

なぜ図書館が主体的に運営すべきか

- ほかに図書館がすることがなくなるから(土屋俊)
 - 学術雑誌は全部電子ジャーナルになる
 - 参考図書, 専門図書はすべて電子化される
 - 検索はすべてGoogle(の将来の姿)でユーザ自身が行う(レファレンスサービス不要論)
- 図書館だけが持っている機能が必要
 - 資料管理・組織化(メタデータ)
 - 電子情報の保存
 - 著作権に関する知識

システムの構築

- トリビアルな問題
- オープン・ソース
 - A Guide to Institutional Repository Software v 3.0
 - <http://www.soros.org/openaccess/software/>
 - 機関リポジトリ構築ソフトウェアガイド(上記ガイドの翻訳)
 - http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/osi_guide_3/
- NIIの支援活動
 - 学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト
 - <http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/>
- 商用ソフトウェア
 - bepress (Berkeley Electronic Press)
 - インフォコム , CMS , USACO (開発中)

運用方針の策定

■ コンテンツ・ガイドライン

- 登録可能な投稿者(誰が登録できるのか?)
- 登録可能なコンテンツの種別(論文,教材,ソフトウェア,データセット等々)
- 登録可能なコンテンツの形態
- 品質管理(査読に相当する品質管理のプロセスが必要か?)
- 登録したコンテンツの削除(取り下げ)
- 登録されたコンテンツの利用方法

■ 千葉大学学術成果リポジトリ運用指針

- <http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/about/guideline.pdf>

登録促進(障壁)

■ インセンティブの欠如

- 登録のメリットは？
- 登録しなくても何のペナルティもない

■ 登録行為に対する抵抗感

- 手間がかかる
- 時間がない

■ 著作権に関する懸念

- (特に学術誌掲載論文の場合)登録する権利があるのか？

登録促進(方策)

- インセンティブの欠如
 - メリットの強調(アメ)
 - 強制力(ムチ)
- 登録行為に対する抵抗感
 - 使いやすい簡易な登録インターフェースの提供
 - 図書館員による登録支援
- 著作権に関する懸念
 - 出版社のポリシーの報知
 - 参考:<http://romeo.eprints.org/>

メリットの強調(アメ)

- 無料でアクセスできるオンライン論文の被引用率
 - オフライン論文に比べて2.6倍多く引用されている (Lawrence, Steve. “Online or invisible?” *Nature*. Vol.411, No.6837, p.521, 2001.)
- 自らの研究成果の可視性の向上
- 研究成果の長期保存・利用の保証
 - 業績一覧リストの出力

強制力(ムチ)

- 雇用者(大学当局)または助成金提供者が、出版された論文のコピーをリポジトリにデポジットすることを求めた場合、どうしますか？

回答	OA著者	非OA著者
進んでデポジットする	83%	69%
やむを得ずデポジットする	4%	8%
デポジットしない	3%	3%
わからない	8%	18%

OA著者: OA誌上に論文を発表したことがある著者

非OA著者: OA誌上に論文を発表したことのない著者

Swan, A. & Brown, S.N. JISC/OSI Journal Authors Survey Report. (2004)による
http://www.jisc.ac.uk/uploaded_documents/JISCOAreport1.pdf

QUTのポリシー

- クイーンズランド工科大学のEプリント・リポジトリへの登録に関するポリシー
 - http://www.qut.edu.au/admin/mopp/F/F_01_03.html
 - 「大学の構成員が公にした研究成果は、原則として全て図書館が運営するEプリント・リポジトリに登録しなければならない．．．研究成果には、論文（プレプリント、ポストプリント）、学位論文、会議発表論文、会議録の章などが含まれる．．．」（理事会承認）

図書館員による代理登録

- Let us Archive it for you! (セント・アンドリュース大学)
 - http://eprints.st-andrews.ac.uk/proxy_archive.html
 - コンテンツをメール添付し, 必要最低限のメタデータを記述して担当者に送信
 - 図書館員が代理登録
 - さらに, 依頼があれば他のリポジトリやアーカイブ(例えば, arXiv.org)への登録も代行

雑誌と出版社のポリシー

	雑誌数	%	出版社数	%
	8,950	(100%)	110	(100%)
公式には認めない	678	8%	32	29%
プレプリントのみ認める	1,185	+13%(=92%)	7	+6%(=71%)
ポストプリントを認める	7,087	79%	71	65%

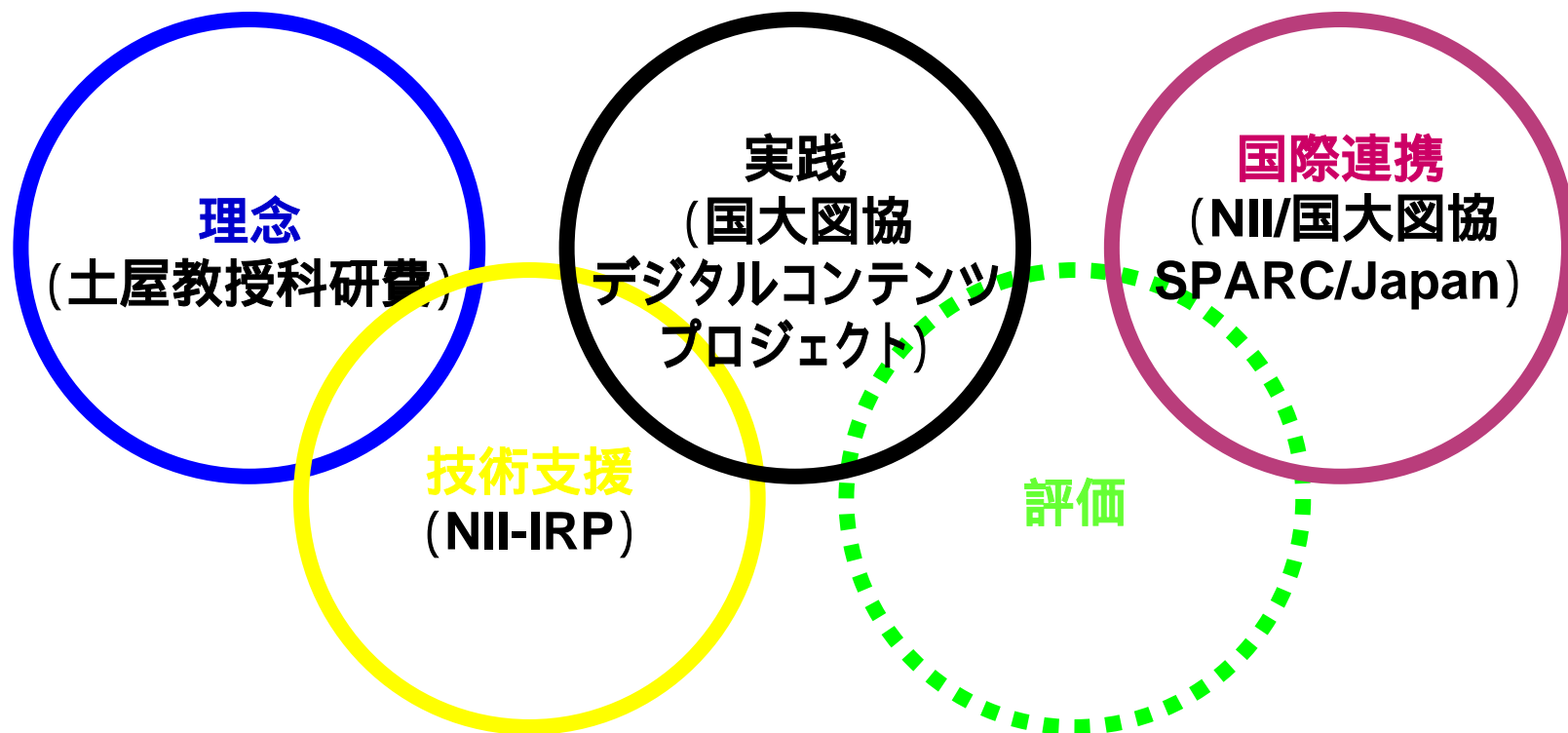
<http://romeo.eprints.org/>による (2005.2.25現在)

著作権についての周知

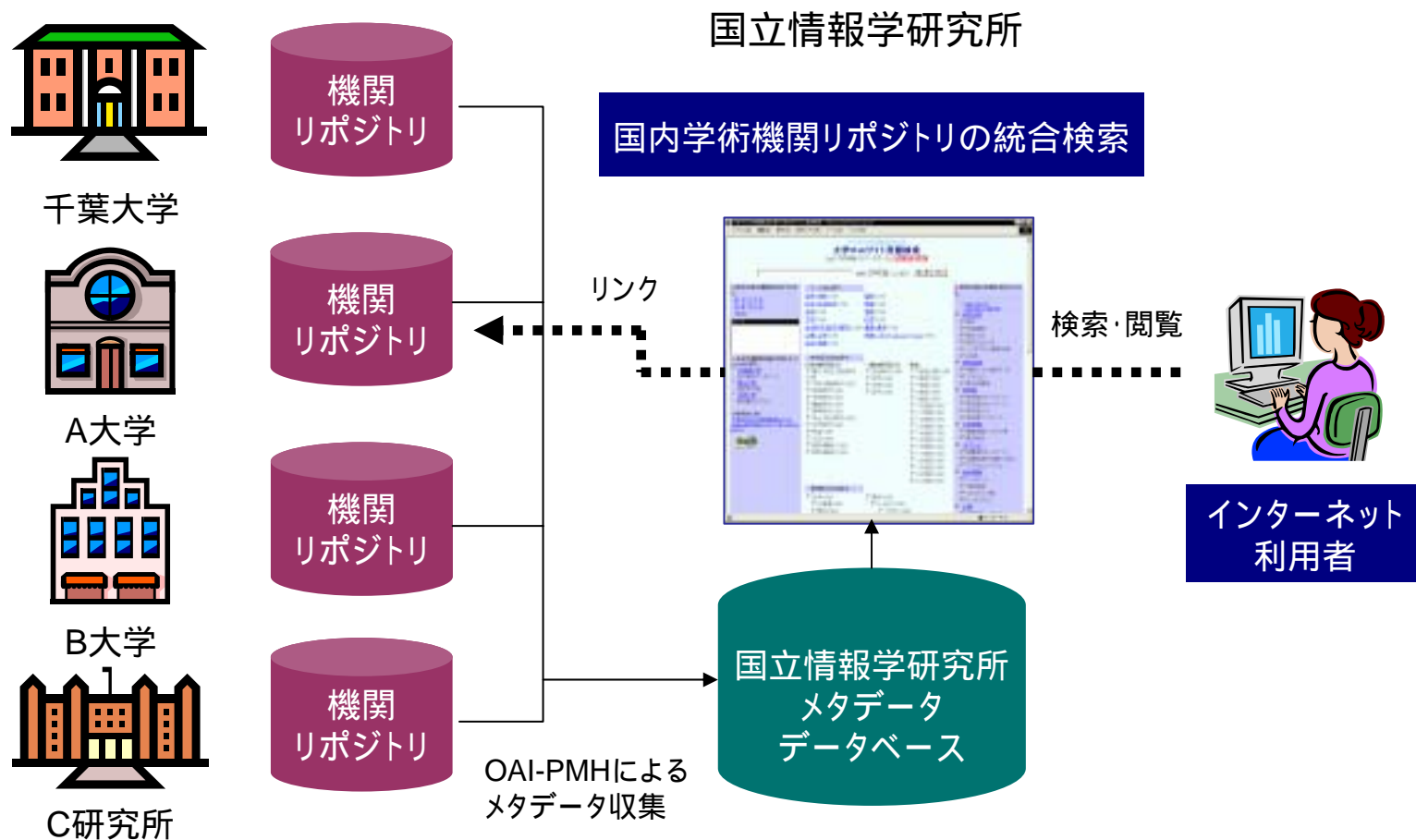
- 絶対に必要である
- 研究者の著作権に対する反応
 - 完全無視派(自分で書いた論文は自由に再掲, 公開できる)
 - 極度の心配性(学会や出版社に著作権を譲渡しているので何もできない)
- 国内学会の方針は？
 - 千葉大学附属図書館の予備的調査
 - http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/about/local_societies_research.pdf
 - 本格的な調査とその公表が望まれる

今後の展望

国内機関リポジトリ関連プロジェクト



リポジトリ連携による理想像



図書館がやるべきこと

- 大学アドミニストレーションに対する説明と説得
学内合意形成
- システム構築
- 運用指針(ガイドライン)の策定
- コンテンツのリクルート
 - 広報, 周知
 - 代理登録
 - 著作権情報, 学会・出版社のポリシーの提供

おわりに

図書館 = 機関リポジトリ